

# 飛躍

森町立旭が丘中学校 第3学年  
学年通信 第22号  
2020年 9月28日(月)  
文責 太田 雄司

## 中学校生活最後の体育大会終了

恵まれた天候のもと、9月24日(木)に中学校生活最後の体育大会が行われました。本来実施するはずだった18日(金)が早朝の雨により中止となったため、一度延期され、4連休を挟んでの開催となりました。行事は予定されていた日に実施できないとモチベーションをキープしたり、上げたりすることがとても難しいものです。しかし、生徒たちはそんなことを言い訳にすることなく、中学校生活最後の体育大会を成功させるために最後まで前向きに準備をして当日を迎えました。当日も自分の競技や演技に真剣に取り組むことはもちろんですが、仲間への声援や係の仕事にも全力で取り組み、半日開催・競技の削減という制限・制約を感じさせないほどの充実した体育大会を創り上げました。保護者の皆様には、早朝より体育大会を御参観いただき、ありがとうございました。大会当日の保護者の皆様の熱い声援や日頃の生徒への励ましや体調管理に御協力いただいたおかげで中学校生活最後の体育大会を感動ある大会にすることができました。ありがとうございました。



### 「3年生の底力」「格の違い」を見せつける！！



体育大会に臨むにあたり、今年度の3年生のテーマ・キーワードとして上記の言葉を生徒に伝えました。村松咲太郎君の力強い開会宣言。体育大会を行えることに対する感謝の思いを語った体育大会実行委員長 高木 蓮君の言葉。体育大会にかける熱い思いを宣言した大場 心翔君の選手宣誓。一人一人の意識と体の動きが綺麗にそろった旭中ラジオ体操。力強い走りと流れるようなスムーズなバトンパスの各種リレー。全校1位を目指して力の限り跳び続けた長縄。そして何と云っても中学校生活最後の体育大会の最後の種目となるソーラン節。円陣での鈴木 悠真君の気合いの入った掛け声。藤田

響輝君のグラウンド中に響き渡る勇ましい挨拶。全校生徒に語りかけるような高木 蓮君の最後の言葉。そして思いの込められた気迫あふれる演技。しかし、今年度のソーラン節は裏話があります。総練習の時には、全校生徒の思いが一つにならない演技に「5年間で最低の総練習(ソーラン節)。大会当日により演技を披露することは無理。もう期待しない。」ときつい言葉を浴びせました。しかし、この言葉を聞いて3年生は発奮してくれました。ここから当日までの体育の授業でのソーラン節の練習は、どの集団もそれまで以上に気持ちを込めて取り組みました。「大きな声・全身をダイナミックに使った力強い踊り・熱い気持ち」で1・2年生を引っ張りました。そして、総練習から大会当日までのわずか1週間で「5年間で最低のソーラン節から5年間で最高のソーラン節」を披露してくれました。圧巻でした。正面で3年生の演技を見ながら、「このままずっと、この子たちのソーラン節を見ていたい。」と思うほどの素晴らしい出来でした。さらに全校生徒の心を揺さぶる閉会式での生徒会長 村松咲太郎君の言葉。体育大会で見た3年生の姿や動きの一つ一つは、まさに「3年生の底力」「格の違い」でした。しかし、「3年生の底力」「格の違い」を見せつけるのは体育大会で終わりではありません。次の目標である中間テスト。中学校生活最後の飛躍祭。そして中学校生活最大の目標である「進路実現」と「感動の卒業式」まで見せつける必要があります。そのためすべきことは、今まで通り目の前の一つ一つのことに全力で取り組むことです。そしてそれらを積み重ねていくことで「誰からも応援される3年生→受検生→卒業生」となれるはずです。



# 総合優勝は2組



今年度の体育大会の総合優勝の栄冠は2組の頭上に輝きました。安定した走力と全校1位となった長縄での力強い跳躍が優勝の大きな要因であったと思います。特に長縄では、1・2年生が素晴らしい跳躍を見せ、好記録を出したこともあり、大きなプレッシャーがのしかかっていたと思います。そんな状況でも集中を切らすことなく、気力・体力を振り絞っての跳躍は見事でした。今年度はAチームとBチームに分かれての実施ということで、回し手の体力面への負担は相当なものだったはずですが、最後まで歯を食いしばり、跳ぶ人が跳びやすい縄を回した回し手。そして、自分たち

が跳んでいないときに跳んでいる仲間へ一生懸命声を掛けるもう一方のチームのメンバー。全員の意思が統一された素晴らしい姿でした。

さて、今年度の体育大会は最初の競技となる「全員リレー」で3クラス中2クラスがオーバーゾーンの反則で失格となる波乱の幕開けとなりました。反則を犯すということは決してよいことではありません。しかし、オーバーゾーンで失格となった2クラスにも、最後までしっかりとバトンを繋いだ3組にも共通して言えること。それはスピードを落とさないスムーズなバトンパスを目指して積極果敢にチャレンジしていたということです。日々の練習からどのクラスもそれを目指していました。ゆっくりとスタートして確実にバトンパスをするという安全策もあるかもしれませんが、それでは中学生のバトンパスとは言えません。少しでも自分たちのチームの記録を向上させようとするなら、多少のリスクを冒してでもトライしなくてはなりません。失格は残念であり、しっかりとバトンを渡せなかった生徒は悔しさでいっぱいだと思います。彼らや失格となった2クラスには失礼にあたるかもしれませんが、自分自身は実際にバトンパスのミスをした目の当たりにした瞬間、「ナイストライ！！」と心の中で叫んでしまいました。そして、最後まで勝利を目指して全力で走る3年生全員の姿を見ながら、「勝負のかかった場面でもギリギリの勝負を仕掛けるあいつらすごいなあ。」「こういう姿こそこの子たちの持ち味であり、強みなんだ。」と改めて実感するとともに、感動し、目頭が熱くなりました。

競技ですので必ず勝ち負けがあります。勝てば嬉しさでいっぱいだろうし、負ければ悔しくて仕方がないはずです。そういう感情が出て当然のことです。しかし、大事なことは勝利を目指して努力してきた当日までの過程です。タイムが上がって喜んだり、なかなか思うように記録が伸びずに悩んだりしながらも必死に前へ前へと進んできた経験です。そんな姿は総合優勝に匹敵するものです。

**「行事のためにクラスがあるのではなく、クラスのために行事がある。」**

今年度の体育大会での経験したことや感じたことは確実に個人個人のそして集団（クラス・学年）の成長につながっていくはずです。

## 体育大会最終結果

	全員リレー	女子障害物リレー	男子障害物リレー	男女混合リレー	長縄跳び	女子800mリレー	男子1200mリレー	得点
1組	15	5	15	10	20	5	5	75
2組	15	10	10	15	30	15	10	105
3組	30	15	5	5	10	10	15	90

**縦割り総合優勝 青団（1年2組・2年1組・3年3組）**

**長縄全校優勝 3年2組 306回**

※体育大会の様子（写真）は旭が丘中学校ホームページに随時掲載していく予定です。是非御覧ください。